

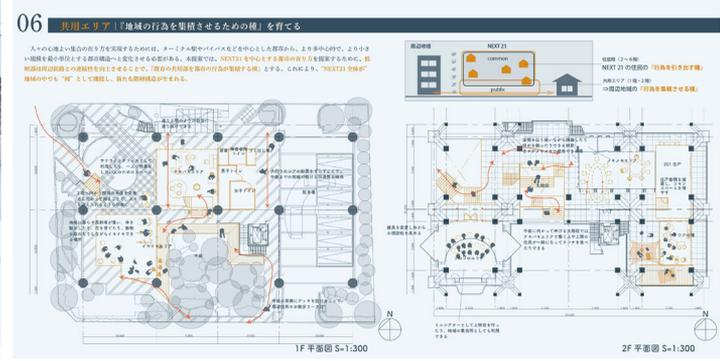
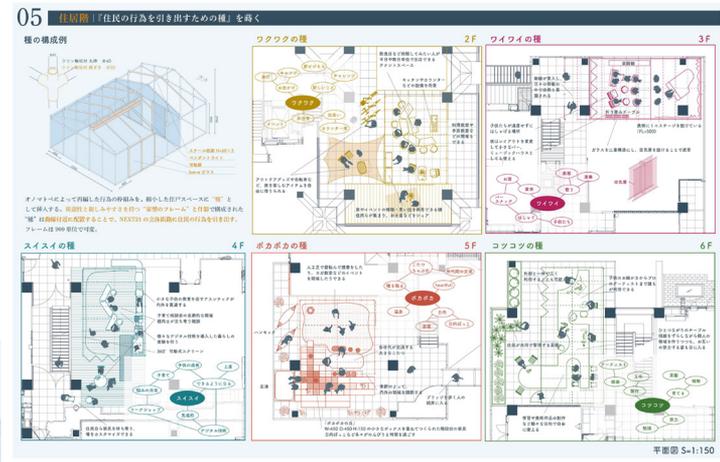
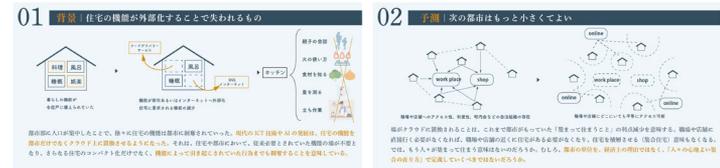
暮らしの種

オノマトベで再編集した行為の枠組みで
次世代の都市での交わり方を蒔く・育てる

20XX年
ICTやAI技術の発展に伴い、住宅に必要な機能が多くのクラウド上に置換された。それは同時に、住むための機械であった住宅の存在価値の低下につながる。しかし、大阪の天王寺区に実空間「だからこそ」の価値を共有し、新たな文化を形成し続けている集合住宅がある。NEXT21である。



1F 大階段 | 中庭に向かって歩くことで、それぞれの行為の終結点となる
スイスイの樓 | 街路にまで広がるデッキが、シームレスな活動を生む
ワカワカの樓 | テントが賑わいをおおらかにつなぐ
ワイワイの樓 | 街路にはみ出したフレームが視線を引き込む
ボカボカの樓 | 木BOXの丘と人工芝が心地よい半屋外空間
コカコカの樓 | 大きなテラスが個人の気配を感じさせる



大阪ガス賞
N00075
暮らしの種
藤野 正希(東北大学大学院)
志村 裕己(東北大学大学院)